

株式会社 サトーメック

DX宣言書

2026年2月13日
株式会社 サトーメック
代表取締役 佐藤 佑一

□ 経営理念

当社は、高度な技術力とサービス力を持続的に発展させ、常に顧客の最高の満足と信頼を獲得し、社会に無くてはならない会社、元気で愉快な会社を目指す

□ DXビジョン(2～3年後にありたい姿)

- ◆ AI時代だからこそ技術を持つ「人」が主役となり、その技で新たな価値を創造し続ける会社を目指します
- ◆ デジタル基盤の整備とデジタル技術を活用した業務効率化を進めることで、生産性を高めるとともに、場所にとらわれない柔軟な働き方を実現します

□ DX戦略・施策

➤ フェーズ1(現在 ～ 2027年9月)

戦略 「デジタル基盤の整備およびDX推進風土の醸成」

- 施策
- ・ 中長期的な業務効率化と企業の発展に向けて、基幹システムを刷新
 - ・ 新システム定着に向け、各課への説明および研修の実施と現場サポート体制を整備
 - ・ 新システム導入による利便性向上等の効果実感を契機としたDX推進風土を醸成
 - ・ 自社や製造業の魅力、社員の声を、ホームページに加え採用サイトで積極的に発信(発信ポイントの例:「職人としての高度な技術力」や「現場の声が反映される環境」等)

➤ フェーズ2(2027年10月 ～ 2029年3月)

戦略 「アナログ業務のデジタル化と業務効率化」

- 施策
- ・ データ入力作業削減とリアルタイムかつシームレスな情報共有のため、基幹システムと周辺システムの連携等によりシステム構成全体を最適化
 - ・ 業務効率化により創出された時間を、技術力や顧客満足度向上等に繋がる創造的な取り組みへ配分
 - ・ システム内に蓄積されたデータをAIで体系化することで、知識や経験に依存せず誰もが必要な情報を容易に検索・活用できる仕組みを構築
 - ・ 社内掲示板や定例会議等で業務改善提案やAI活用事例等の意見交換を行い、継続的な業務改善活動を推進

➤ フェーズ3(2029年4月 ～ 2030年3月)

戦略 「継続的な業務効率化・DX推進」

- 施策
- ・ タイムリーな経営判断を可能にするため、蓄積されたデータをBIツール(※1)等で分析し、売上予測や生産計画の最適化、リスクの早期発見に繋がる情報活用の仕組みを整備
 - ・ 業務負担軽減と余剰時間創出のため、ルーティン業務(見積書作成、在庫予測等)をAIやRPA(※2)で自動化
 - ・ DX実績をモデルケースとして業界メディア・地域経済誌や講演・セミナーで積極発信し、地域製造業の発展および認知向上に貢献
 - ・ 県内大学・高専との産学連携プロジェクトや職場見学会を開催し、地域の技術者育成への貢献や実際のDX推進現場を体験できる機会を提供
- ・ ※1 BI(ビジネス・インテリジェンス)ツール:蓄積データを集計・分析し、グラフやダッシュボードで可視化することで経営判断に必要な情報を素早く把握できる技術
・ ※2 RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション):パソコン上で人が手作業で行う定型な業務や反復作業を、ソフトウェアロボットが自動で実行する技術

□ DX推進体制

- ・ 代表取締役がDX推進における実務執行統括責任者を務めます
- ・ DX推進チームがDX戦略実行の中心的役割を担います

□ DX推進目標

- ・ 新規採用人数 : 毎年1名(2028年4月～)
- ・ 転記作業削減率 : 2025年度比 90%(～2029年3月)
- ・ 紙の使用量削減率 : 2025年度比 80%(～2030年3月)